



2015・8・21

第213号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 後半戦に向け草の根の運動と大きな共同さらに

### 後半国会へ「交流・討論集会」

8月12日午後6時から、九条の会事務局主催の「戦争法案は廃案に！ 九条守れ 九条の会交流・討論集会」が開かれ、全国から122名が参加しました。集会では問題提起を含む渡辺治事務局員のあいさつ、10の地域・分野の会からの報告が行われ、これをうけた討論では10人が発言、最後に小森陽一事務局長がまとめのあいさつをしました。

別項に、集会におけるあいさつと、報告の要旨を紹介します(文責・『九条の会ニュース』編集部)。

### 「法学者と学生・市民のつどい」も

12日午後2時30分から4時40分まで、九条の会事務局主催、民科法律部会協賛の『戦争法案』廃案に向けて 法学者と学生・市民のつどい」が開かれ、210人参加しました。

「集い」では学生からの「この法案で自民党が何をしたいのか」、「集団的自衛権は必要という人とどう話したらいいか」などの質問が出され、浦田一郎(明治大学・憲法学)、城秀孝(神田外語大学・国際法学)、新倉修(青山学院大学・刑事法学)、渡辺治(一橋大学名誉教授・政治学)がそれぞれの立場からこれらに答えました。

### 交流・討論集会のあいさつ・発言

#### 開会あいさつ

事務局 渡辺 治

5月1日、九条の会事務局は戦争法案をの国会提出を前にアピールを出しました。戦争法案をつぶすために、「九条の会らしさ」をもって探求しようと訴えました。「九条の会らしさ」というのは、多くの人が参加できる保革を超えた共同、もう一つは全国津々浦々で地域に根ざした取り組みです。

まず、戦争法案反対の運動を盛り上げてきた4つの力を確認しておきます。

第1の力は、「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」という新たな共同が生まれ、活動していることです。この共同のなかで民主党、共産党、社民党が一堂に会して連携するかつてない取り組みが行われています。

第2は、九条の会のがんばりで、大都市部だけでなく地域の立ち上がりをつくってきたことです。そのなかで、自分たちが責任をおっている地域全体を対象とした取り組み、全戸にチラシを配付することや、町の中心部でのすわりこみ、道路沿いに看板

をたてるなどの行動が創意をこらして行われています。また政党間の共同をはじめ、地域での大きな共同をつくるためのイニシアティブを発揮しています。さらに九条の会の新たな結成の動きです。秋田では社民、共産、民主による県議九条の会ができています。さらに九条の会は全国の地方議会で戦争法案反対・慎重審議を求める決議にとりくんできました。3月以降、405の地方議会で決議が採択されていますが、このうち393が反対・慎重審議を求める決議です。それから SEALDs とは別に各地に青年九条の会ができています。

3番目に、そうしたなかで、保守的な人々の立ちあがりがあるいろいろな形であらわれています。地方議会の決議でも114人の与党議員が戦争法案反対・慎重審議賛成にまわっています。これは九条の会がさまざまな形ではたらきかけている成果でもあります。

4番目は女性や学生が、SEALDs とか女の平和のヒューマンチェーンとか、それぞれ声をあげるということがおこっています。

こういった運動の4つの力が発揮されて安倍内閣を追いつめたと思います。

これまでの戦争法案反対運動のなかで2つの大きな画期がありました。

一つは6月4日、衆院憲法審査会で3人の憲法学者が集団的自衛権は違憲という発言をし、大きく潮目を変えたことです。自民党の幹部は、これはオウンゴールと言いましたが、私たちの運動がそうした状況をつくり出したのだと思います。その後、6月25日の自民党の勉強会で、財界は新聞に広告を出すな、沖縄の2つの新聞をつぶせ、という発言があつて、これもオウンゴール

といわれましたが、これも私たちの運動がもたらした自民党議員の焦りだと思います。その結果、安倍内閣は6月22日、95日の会期延長を強行せざるをえなくなりました。

そして7月16日の衆院の強行採決をむかえ、これをきっかけに第2の画期がもたらされました。おそらくこの強行採決を境に運動は第3の局面、後半戦に入りました。

戦争法案をつぶすためには、国会を通過する前に安倍内閣を倒すしかありません。私たちは、60年安保闘争の時すらやったことのない困難な取り組みをしなければならないと思います。これまでのたたかひの延長では、私たちは安倍内閣を追いつめることはできても、戦争法案を止めるところまではいかないのではないかと。どんなたたかひをこれから展開したらよいか。私は、4つの取り組みを行っていくことが必要ではないかと思っています。

一つは、もっともっと幅を広げた運動です。私たちの地域の宣伝行動では、どこでも、前よりはビラを受け取ってくれるという反応があります。しかしまだまだ受け取らない人が多い。

戦争法案についての世論調査をみると、6割ぐらいの人たちが反対、7割ぐらいの人たちは今国会の通過には反対、そして8割ぐらいの人たちがこの戦争法案に関する政府の説明は不十分だと思っています。だがこの人たちは世論調査では反対を表明するが、自分で何かしようとは思っていない。この人たちに声をあげてもらふこと。そのために私たちの訴えを届ける取り組みを地域でやる必要がある。

第2は、その地域の取り組みのなかで、

共同をつくる。総がかり行動実行委員会は中央の共同なので、地域で共同をつくる。それが総がかり行動実行委員会の地域版になるのか、政党間の共同になるかいろいろな形態が考えられます。そうした地域の共同、その共同による地域での集会です。

3番目に、こうした地域での取り組みをもちよって東京で行われる集会にいろいろな形で参加する。8・30の集会などにできるだけ参加し、国会を大きく包囲する。

4番目は戦争法案反対のたたかいと沖縄の辺野古の新基地反対のたたかいを、地域の九条の会の取り組みのときには結びつける、これが安倍内閣を追い詰めていくことになるのではないかと思います。

今日を安倍内閣を倒し、戦争法案をつぶす後半戦の取り組みの第一歩にしましょう。

## 宮城県 みやぎ憲法九条の会

板垣 乙未生

宮城県内の九条の会は今、「安保法案ゼツタイ廃案」をめざし、出来ることは何でもやろうと様々な活動を行っております。

1つは、数多くの県民集会の成功に努めてきました。3月7日の1700人大集会、5月31日の1800人集会、6月24日の700人緊急集会、7月17日の1000人緊急集会に中心的な役割を果たしております。

2つには、活動が全県的に広がっています。昨年の秋から今年の春にかけて県南地域の2市7町すべてに九条の会が設立されました。その力で、4月4日に900人集会を大河原町で成功させています。この全県的な活動はその後、県北部の大崎地域に広がり、4月に大崎地域の8組織が「大崎九

条の会連絡会」を結成し、7月25日には大崎市において200人規模の集会を成功させています。これらの保守層や自民党支持層を巻き込んだ全県的な活動の広がりには「憲法を守る首長の会」の会員が非常に大きな役割を發揮しています。

3つには、戦争法案の廃案・徹底審議を求める意見書採択を地方議会に働きかけ、その結果、4市、4町計8つの地方議会で九条の会などの請願が採択されました。

大崎市では、九条の会大崎連絡会などの働きかけで、7月2日、大崎市議会で「安保関連法案の国民が納得できるまでの審議を求める意見書」を、予想をくつがえし賛成15、反対14の1票差で可決しました。自民党、保守系の一部議員が賛成に回ったためです。この動きは7月31日、意見書に賛成した12名の議員による「国民合意なしの安保関連法案をストップさせる大崎市議会議員の会」結成につながり、8月10日には大崎市8か所でリレートークしています。

8月30日の10万人総がかり行動にバス2台100人で上京します。また、全国100万人行動に呼応して仙台市内中心部で丸一日かけてリレートーク、チラシの配布などを行います。

宮城県内九条の会は、連絡会総会を8月29日に開き、総決起の場といたします。

## 福島県南相馬市 はらまち九条の会

山崎 健一

南相馬市は震災で地震、津波、原発事故とその風評被害で7万人いた人口が一時1万人に減ってしまいました。その中の原町は映画「日本の青空」の舞台になった鈴木

安蔵先生の故郷です。10年前に2人で九条の会を始め、いま会員は約440名です。

1971年に当時の原町市が憲法全文を載せた小冊子をつくって全戸に配りました。私たちは「日本の青空」作成の際にその復刻版をつくり成人式で新成人に配ってきました。今年で8年目になります。そして今年3月には、南相馬市のはらまち・小高・鹿島・教職員の4つの九条の会がそれを市でつくって全戸に配布するよう陳情しました。なんと6月、この陳情が採択されたんです。今年中に冊子が発行されます。

2番目は、お金のないなかで1万5千ぐらいの世帯にむけて3年間、「憲法を守りましょう」とか「集団的自衛権はダメ」とかのチラシを新聞に折り込みました。

3つ目は、早く家にもどれるよう除染をしてほしいとの陳情を震災直後に出し、いまやっと町の中まで除染がすすんでいます。

4つ目は、被災地視察の希望が多いので、依頼があれば九条の会としてお引き受けしています。私も今年に入って関東地方の九条の会の人たちを10回案内しています。

5番目は、これは私たちの運動の反映かどうかわかりませんが、南相馬市議会は昨年6月に「集団的自衛権容認に反対の意見書」、今年3月に脱原発都市宣言、7月には2つの安保法案を廃案にという意見書を採択しています。市民団体からの陳情によるものですが、「大震災でお世話になった自衛隊員の命を守れ」というのがその理由です。

## 千葉県四街道市 四街道・9条の会

林 孝

四街道は明治以来の軍隊の町で、現在も

自衛隊の駐屯地があり官舎が立ち並んでいます。四街道・9条の会は戦争法案にたいし私たちに何ができるか、4月から討論集会を数回開き、四街道市の全市民に向けて宣伝活動をするようになりました。

その1つは4万枚のビラをつくり全戸に配布する、2つ目は拡声器を使用して市内で巡回宣伝活動をするのでした。

この2つをやるためには大勢の協力が必要です。それからお金がなければできません。まず、会の呼びかけ人や賛同者は200人ほどいますが、それを倍にする必要がある。そこで世話人会のアピールを出し、各戸や商店にポスターを掲示する活動、人の目につく場所に横断幕や看板を設置する活動、カンパの要請活動、署名活動、20枚以上のビラを配布してもらう、等の協力を呼びかけました。そして4万枚のチラシの配付、市内巡回の宣伝の体制をとりました。

全戸配付ビラも残り6千枚となりました。ビラを見た市民の方々から「カンパをしたい」、「署名用紙を届けてほしい」とか励ましの電話がありました。宣伝カーで市内を回ると家の中から手を振る人、散歩中に手を振る人、家の玄関から外に出て声をかける人などさまざまな反応があります。

賛同者は少しずつ増え、元自衛隊員の方も入りました。カンパの協力は90名を超え数万円寄せてくれた人もいて、活動資金に余裕がでるようになりました。10周年記念のつどいは会場に100弱の人数制限がありましたが、150名が参加して成功しました。

軽トラの宣伝カーは、前が「憲法9条を守ろう」、後ろが「安保法案は憲法違反」、左に「STOP!戦争する国づくり」、「国民の

力で戦争法案を廃案に!」、右に「戦争する国にさせない!」、「若者を戦場に送るな!」の横断幕を掲げています。今日また、宣伝延長の許可をとりました。

今月の27日には「交流会とそーめん流しの夕べ」をやります。

## 神奈川県藤沢市 ふじさわ九条の会

島田 啓子

ふじさわ九条の会は2005年の結成いらい毎月「9の日行動」の街頭宣伝をしていますが、それだけでなく、特定の地域に入っ、その地域中心に200世帯くらいの単位で、ふじさわ九条の会と地元の人が2名1組でチラシを入れてきました。なかには九条の会に入りたいとの申し出もありました。そういう地域を限定して全戸配布をしたのは、その地域に九条の会をつくってほしいという思いがあったのですが、それが成功して地域で九条の会ができた所があり、藤沢市内にはいま8つの地域九条の会があり、それぞれが独自の活動をしています。

それから私たちはいま、若い人たちとなんとかとつながりたいと、藤沢にある慶応大学と日本大学の前で去年チラシをまきましたが、本当に受け取ってくれない。友達の目を意識しているのかどうか。

子育て中のお母さん、お父さんにもこの戦争法案の危険性を訴えたいと考え、自主保育の先生たちにチラシを配布してもらえないか頼るところ「いいですよ」ということでしたので、表はかわいらしい絵を使い、裏には「ふじさわ九条の会からのお手紙」として戦争法案の危険を訴え、いくつかの保育園で配ってもらいました。

保守的な人々にも訴えようと、藤沢では九条の会も入って、不戦の誓い平和行動として8月15日と12月8日には超党派の議員さんたちといろいろな企画をくんでいます。そこで今回の戦争法案に反対する行動を強めようと今年は7月の3日、14日、8月の25日、9月の12日に行動を組むことになりました。超党派と言っても公明党、自民党の議員は参加されないのですが、民主党の方たちは参加しています。

それからこれは九条の会のメンバーも入っていますが、創価学会の婦人部の方々は立憲主義を守るという点では私たちと同じ思いですので、3年前からいっしょになって実行委員会方式で学習会を開いてきました。一緒に行動する機会を増やし、ここは大事にしたいと思っています。

## 埼玉県さいたま市 「九条の会」緑区連絡会

中島 良一

緑区には9つの小学校区と5つの中学校区がありますが、この8月に4つ目の地域九条の会ができて活動するようになりました。緑区では2009年区内の「三室」、「おまぎ」、「みぬま」の3つの会がよびかけて緑区連絡会をつくり、毎年5月、連絡会主催で「緑区文化のつどい」を開き、毎回200~250名参加しています。結成されていない地域からもこの集会や連絡会の会議に準備会ということで参加してもらいました。そして2010年には「九条の会はらやま」、今年7月には「中尾九条の会」、8月には「美園九条の会」が発足しました。

画期となったのは第2次安倍内閣の登場

で、学習会・文化行事を中心とした限られたメンバーの活動から、地域に活動を広げて対話する活動への転換をよびかけました。

一つは署名運動です。これまでも毎月「9の日宣伝」をやってきましたが、2013年以降、とくに若い人たちは集団的自衛権のターゲットになっているのではと、チラシの受け取りや署名に反応があらわれています。ある若い女性は恋人が自衛隊員だといって署名しました。署名数は最初のころは20、最近では50、多いときには70筆集まるようになり、署名累計は7700筆を超えました。

8・30ですが、これは緑区としても「8・30 オール緑区1000人集会&パレード」をやろうということになりました。これは九条の会が中心になって実行委員会をつくり、自治会長や医師、保守層の人々にも加わってもらって1000名の賛同者を募る運動をしています。その中で、自分は知らなかったが娘さんが国会行動に参加していたなどと話し、賛同を引き受けた人も出ています。全世帯へビラ配布、ミニポスター、宣伝カーなどの大宣伝もやりぬく方針です。

この取り組みのなかで、いままではこうした運動に参加したことはなかったが何かしなければという思いになっている人たちがおり、手ごたえを感じています。

## 東京都練馬区 ねりま九条の会

### 大柳 武彦

ねりま九条の会は、九条の会の提起をうけ、地域から行動を起す、共同を重視する、の2つを重点的に取り組んでいます。

ねりま九条の会員は900人おり、これまでも地域に九条の会を作りたいと思ってい

ましたが、活動家とても手がまわらない、年寄りが多いとかでできませんでした。

そこで結成くらい1回も地域ごとに顔あわせをしたことがないから、町単位に集まってもらおうと案内しました。会員が40人いる所でも集まるのは3人か4人。しかし「なんとかしなければ」、「私は82だが、このまま死ぬに死ねない」ということで「地域九条の会つくろう」ということになり、いま7つの町で九条の会ができました。

その一つ、春日町の九条の会は結成されてすぐに「日本の青空」の上映会をやろうと、チラシ3000枚を新聞折り込みし、40人の方が参加しました。その映画チラシの裏に1週間後のデモの宣伝をしましたが、デモには120人が参加しました。他の会でも非常に裾野が広がり、会員の力を引き出すきっかけになりました。

共同です。いま20数団体が集まって「アベ暴走ストップ練馬」という組織を発足させました。チラシを5万枚つくって駅頭宣伝、各戸配布することや、共産党や生活者ネットを中心に他の会派によびかけ、区議会の自民、公明、維新を除いた9会派が集まり、3回の宣伝行動をしました。超党派の宣伝カーは9月21日まで運行します。駅頭では飛び入りでチラシ配付を手伝う人やカンパを渡していく人もいます。弁士は議員や九条の会員の牧師らがつとめています。

8月17日に宗教者の共同声明を発表しました。真宗大谷派、天理教、キリスト教団、立正佼成会等から14名が賛同。創価学会は会内賛成、反対で混乱しており、一方に賛成できないと断ってきました。

これからは、区民一人のひとりの眠りを

さまざまという意味で、自民党や公明党を含め地元の区議会議員を引っ張りだす「区議会議員と語る会」を開いていきたい。

## 東京都調布市 調布九条の会「憲法ひろば」

石川 康子

調布九条の会は2004年結成いらい毎月の学習会とニュースの発行を中心に、見学旅行、市民公募の美術展も行い、10周年には130人の市民合唱も実現しました。

戦争法案については、昨年7月の閣議決定直後の九条の会のよびかけに応え、これまで「憲法ひろば」に参加してこなかった人たちを結集し、「九条の会のよびかけに応える調布の会」を作り、署名運動などに取り組むほか、若い人たちに企画してもらって、10代、20代、30代の人たち、その母親の世代との対話集会を行いました。しかし会の活動は先細りで解散してしまいました。調布市内には当初10の九条の会ができましたが、活動を続けているのは5つで、眠り込んだ会を起こすことはできませんでした。

戦争法案が国会に提出されるとすぐ、「憲法ひろば」の中心メンバー2人がこれに反対する運動をよびかけました。それに応じて5月23日に20数名が集まり、何らかの会を立ち上げることで、市議会に戦争法案廃案を求める意見書の採択を求める陳情をすることになりました。この陳情はわずかな期間で852人の賛同を集めましたが、市議会では1票差で否決されてしまいました。

最初の集まりで、「従来の運動とは断ち切れたまっさらなものとしてやりたい」との発言もあって、戦争法案に反対する運動は、

「戦争はいやだ 調布市民の会」として行うことになり、九条の会は全面的にバックアップしています。「市民の会」は「9の日行動」として毎月調布市内の駅頭でチラシ配布、署名運動、シール投票などを行っています。また、市議会は、私たちの請願を否決する一方で、自民党議員の提出した戦争法案を今国会で成立させよという意見書を採択してしまったので、いま、それを取り消させる請願運動に取り組んでいます。

9月6日には、「戦争はイヤ まちなかパレード」をします。もともと市内23団体が、それぞれの要求を掲げて毎年やってきたのですが、今回は要求を戦争法案廃案一本にしぼって「戦争はいやだ 調布市民の会」主催で行うことになりました。

## 東京都国立市 国立東九条の会

八木 絹

国立には市全体の九条の会のほかに2つの地域九条の会があります。その一つ国立東九条の会の活動として2006年7月に「9条カフェ」を始め、今年で9年になります。

めざしたのは平和憲法について自由におしゃべりする場をつくることでした。東京では、いつも学習会や講演会があちこちにあります。大きな会場で、ずっと座って先生の話聞くというのが多くて、それも勉強になりますが、聞くだけでなく自分の考えも話したいという人も少なくない。ヨーロッパのカフェは市民が集まって政治論議をして革命にむけた力を蓄える場でした。そういう場にしたいかったです。

国立にあるひょうたん島という素敵なカフェを会場に2ヶ月に1回、木曜の4時か

ら6時まで、これまで51回開催しています。5月には50回記念イベントを開催しました。国立キリスト教会の牧師さんのお話、うたやピアノの後、参加者全員で平和についてのおしゃべりをし、30人が参加しました。

通常の「9条カフェ」では、毎回、参加者の誰かが、「君が代・日の丸」とか、「集団的自衛権行使」など特定のテーマで報告をして、みんなで討論するという方式をとっています。参加者は10人程度で、毎回新しい参加者があり、一橋大学や国立東高校の学生さんが参加することもあります。

「9条カフェ」として、署名を集めたり、ニュースを作ったり、会費を集めるなどはしません。どんな話も自由にできます。いまは集団的自衛権が議論になることが多いのですが、自衛隊は違憲という人も、専守防衛なら認めるという人も、この際自衛隊を活用しようとする人でもかまいません。

その成果でしょうか、市民のあいだに政治的対立がおこっても、「9条カフェ」は分裂することなくつづいてきました。

## 映画人九条の会

### 高橋 邦夫

映画人九条の会はいま1200人ぐらいですが、こここのところ増えてきています。

私たちは今年5月に戦争法案が国会に提出されたことにたいし、映画人としてもこれまで以上に大きな声をあげないといけなないと考えました。著名な映画監督や俳優さんが声をあげることはたいへんなインパクトがあります。多くの映画人の戦争法案反対の声を集めて発信することこそ、映画人九条の会の役割だと考え、運営委員の方々

と相談し、「アピール 私たち映画人は『戦争法案』に反対します！」という文案をつくり、高畑勲（アニメーション映画監督）、降旗康男（映画監督）、池谷薫（映画監督）、大澤豊（映画監督）、大林宣彦（映画作家）、神山征二郎（映画監督）、金丸研治（映演労連委員長）、ジャン・ユンカーマン（ドキュメンタリー映画監督）、羽田澄子（記録映画作家）、山田洋次（映画監督）の10人の方々の名で6月中旬から賛同のよびかけ、大きな反響をよびました。

戦争法案が衆院で強行採決された7月16日、高畑監督や降旗監督ら6人と私が出席して記者会見し、このアピールへの賛同が446人になったことを発表しました。

このアピールの賛同者はその後も増えつづけ、今日現在で718人になりました。俳優では吉永小百合さん、大竹しのぶさん、倍賞千恵子さんらが賛同を表明しています。監督も日本映画界を代表する巨匠といわれる方々が賛同の声をあげています。

賛同だけでなく、痛烈なメッセージが数多くよせられているのも特徴です。是枝裕和監督は、「現政権は政治権力が憲法によって縛られものであることをそもそも理解していない。憲法解釈の歯止めなき拡大によって、いま民主主義が滅びようとしている」というメッセージを寄せています。

安倍政権は9月にもこの法律の成立をねらっていますが、私たちはこれからもこの映画人アピールの賛同を広げていきます。

## 子どもの本・九条の会

### 長谷川 知子

私たちの会は子ども本の作り手と使い手



で構成し、いま会員は全国で1000人います。

昨年までは新年行事として講演会と戦争と平和に関する子どもの本の展示会、紙芝居読み聞かせなどをしていましたが、今年は本当に「戦争なんて大嫌い」ということを大きな声で言わなければならない状況なので6月4日から8日までの5日間、池袋の東京芸術劇場アトリエハウスで、「今、平和を。子どもたちが夢をもてる未来へ」というスローガンをかかげ、「トークと展示の会」を開きました。

展示は、例年の「戦争と平和をめぐる子どもの本展」にくわえ、「戦争なんか大きらい！絵描きさんたちのメッセージ展」の2本立てになりました。「メッセージ展」は、会員や絵描きさんたちによびかけまして63点もの原画があつまり、画期的な「メッセージ展」にすることができました。

トークはミニ講演会として、早乙女勝元さんや内田麟太郎さんに講演していただき、朗読会、子どものためのワークショップ、読み聞かせ、紙芝居など多彩におこなわれました。面白かったのは、「私たちは怒っているゾ！」というトークで、絵描きさんと作家たちが、自分たちは何に怒っているかについて討論したことです。

こうしたことをつうじ、私は絵描きなので絵描きとして日々コツコツできることは何だろうと思っています。イラストを提供したり看板をつくったりいろいろありますが、いまこそみんなで声をあげていけるようにするために何ができるかだと思います。私の仕事は子どもの幸せあってのことなので、子どもの未来がつぶさないようにするため、1人の声は小さくてもたくさん集ま

れば政治を動かす力になると感じています。

## まとめのあいさつ

事務局 小森 陽一

この2015年8月12日というこの日にこの「交流・討論集会」をもったことは重要な意味をもったとあらためて思います。

第1に、5月1日に九条の会事務局として提案させていただいた方針をそれぞれの地域、分野の会の実情に即して実践していただいたことが、これまでとは量的、質的に違った大きな運動を生み出している。

今日ここに集まったそれぞれの九条の会の皆さんが、それぞれの地域、分野でこれからどれだけ早く、そして多くの仲間にごこのこと伝えることができるか、これが第3次安倍政権を打倒していく運動に転換するうえで重要な意味をもっている。

私たち九条の会をはじめとする草の根の運動を積み重ねることによって第1次安倍晋三政権を打倒した経験をもっています。九条の会等の運動によって、3年続けて「憲法を変えない方がよい」という人が増え続け、「変えた方がよい」という人が減り続け、拮抗するなかで2007年の参議院選挙が行われました。そのため自民党と同じ改憲政党であった民主党の小沢一郎代表は、「国民の生活が第一」とマニフェストを大きく転換し、7月の参議院選挙では民主党が勝利して、自公政権のもとで改憲は許さないという状況をつくりだした。

ここで渡辺さんが冒頭あいさつの最後の4つの行動提起の一つとして強調した沖縄の辺野古基地の問題を九条の会の運動と結びつけることが大事だと言っていたことの

歴史的意味を思い起してください。草の根から始まった九条の会の運動をつぶすために小泉政権は2005年9月に郵政民営化の是非を争点に総選挙を行いました。そして自民党は296議席を獲得、公明党とあわせればいつでも明文改憲が可能な状況をつくった。そして2005年10月28日に自民党新憲法草案をだして、その中で9条2項を削って自衛軍を保持するとした。その1ヵ月前、2+2=日米の外務・防衛閣僚会議で、自衛隊をアメリカの海兵隊といっしょに世界に殴り込める部隊にする、そして2本の滑走路をもって海兵隊が使える辺野古基地をつくることが決まった。同じ2+2でアメリカ軍と自衛隊が情報を共有するのだから特定秘密保護法が不可欠だ、少数で戦争を判断するためアメリカと同じ国家安全保障会議が必要、ということを決めました。

それを実行するために出てきたのが第3次小泉政権の官房長官であった安倍晋三という政治家です。彼は2006年に安倍政権をつくり、そして2007年の参議院選挙で敗北してもなお辞めなかった。ではどうして辞めたか。9月5日のシドニーにおけるアメリカのブッシュ大統領との首脳会談で、泥沼になっているアフガニスタンに自衛隊をPKOとして派遣する、それから小澤民主党が憲法違反と言って反対しているアフガニスタン攻撃の有志連合への給油活動の継続を求めた。これにたいして安倍首相は「職を賭してやる」と言ったのです。でも泥沼になっているアフガニスタンには非戦闘地域以外に自衛隊を参加させることは絶対にできないと頑張ったのが内閣法制局長官の宮崎礼壹さんで、宮崎さんは国会でいまの

法制は違憲だと明確に言っていたのです。

第2次安倍政権は国家安全保障会議法と特定秘密保護法を強行採決し、そしていま戦争法案を何としてでも成立させようとしている。2011年まで私たちは九条の会の数を7528までカウントしました。この間、多くの会で中心になっていた人が亡くなったり、お休みする会も出ていますが、新しい九条の会もたくさん生まれていますので、今はアバウトに7500と書いていますがます。この九条の会が5月1日の九条の会事務局の呼びかけに応じていっせいに行動したことが、安倍政権の支持率を37%まで落したのです。これは私たちが運動のなかで勝ち取った支持率の低下です。だったら、それをあと10%落とすかどうかです。ここが、これからの私たちの運動の要になります。

そこで渡辺治さんが提起した4つの行動をあらためて確認しておきます。まず第1、今日皆さんが報告された地域・分野の運動を一回りも二まわりも広げること、とりわけ保守的な人たちの立ち上がりを求める活動を強めることです。第2は、そして地域でも大きな集会を開く、九条の会はそのイニシアティブを積極的にとることです。第3に、これを踏まえ、8月30日「国会10万人、全国100万人大行動」に多くの人を誘って参加することです。東京に近いところでは、国会前の集会に多くの人に集まってもらう。それぞれの地域でも大集会に集まってもらう。そして第4に、戦争法案反対の闘いと沖縄の基地問題と結びつけて運動すすめる、ここに安倍政権を退陣に追い込む展望があると思います。

私たち九条の会のがんばり時です。